



# 水無神社略記



長野県木曾郡木曾町福島1078番地  
水無神社社務所  
電話・FAX (0264) 22-2009



◆たてまくり

座する事を計画、早速神輿を急造して木曾へと向かった。幾多の山、谷を越え飛騨と信濃の国境に到った時、追手に迫られた。もみ合い押し合いのうち神輿はとうとう肩を外れて路に落ち、峠の頂から木曾領へと転げ落ちて行った。この様にして危機を脱した一行は神輿を奉じて無事に木曾福島へ着き、伊谷の地へ鎮齋する事が出来た。  
それで氏子達は「惣助と幸助」の労苦と偉業とをしのびこの故事にならって掛声も勇ましく神輿をまくる（転がす）のだと言う。

◆特殊神事（みこしまくり）  
七月二十三日に行われる渡御祭はみこしまくりと呼ばれる奇祭である。新造された約百貫の神輿は「精進」（惣助幸助）の指揮に依って梓持衆の肩に担がれ神社を出発祝歌、神歌の間に「惣助、幸助」の掛声勇ましく、町内を練り、夕方遅く飛騨街道の見える町外れに至って、掛声と共に神輿を地面に放り落とし、横まくり、縦まくりと夜を徹して転がし廻る。巨大な神輿が夜空に空を切って倒れ転がる壮観さは見た人でなくては想像出来ない。  
すつかりこわれ果てた神輿が神社へ還御になるのは翌早朝となる。



◆渡御の全景

伝えるところ  
に依ると、往古  
飛騨国一の宮水  
無神社の近くに  
戦乱が起こり神  
社はその渦中に  
巻き込まれよう  
として居た。こ  
の時この地へ出  
稼ぎに来て居た  
木曾の人「惣助  
と幸助」の二人  
が、この状を見  
るにしのびず、  
故郷の木曾へ遷



◆よこまくり

## ◆宝物

墓	股	二	室町期、鎌倉期
太	刀	三	銘 恒（県宝）外
棟	札	多数	鎌倉期以降
古	文	多数	鎌倉期以降
懸	書	多数	室町・鎌倉期
狛	犬	二	室町期
古	鏡	三	鎌倉期
御深草院御真筆		一	

その他、祭具、調度品、絵馬等江戸期のもの多数がある。

からの実績（中仙道木曾福島関所を守っていた山村代官は、代々街道通行の安全に意を配り、交通安全祈願の為、しばしば社参している。）をもち、その霊験は特にあらたかで、近郷からの参拝も少なくない。